

夏休み経済教室(東京高校対象) 記録

- 1 日時：8月19日(火曜日) 9時30分～16時00分
- 2 場所：慶應義塾大学三田キャンパス北館3階+ウェビナー配信
- 3 参加人数：会場91名、オンライン218名(申し込み数) 最大値131名
- 4 主な内容：進行役 升野伸子先生(昭和女子大学全学共通教育センター教授)

(1) 挨拶

・開会の挨拶

千葉県立津田沼高等学校の杉田孝之教諭より、開会の挨拶とプログラムの見所の紹介があった。

・慶應義塾大学 商学部長 牛島 利明 先生

「今後、中学校や高校の先生方とお話しする機会が増えることを希望する」というメッセージをいただいた。

・東京証券取引所 斉藤 史貴 氏

この2日間の実践発表を通じて、多くの学びを持ち帰ってほしいというメッセージをいただいた。

(2) 一コマ目

○杉浦光紀先生(東京都立新宿山吹高等学校主任教諭)から「社会的共通資本に関する授業を構想する」というテーマで授業実践の報告があった。

・まず、「社会的共通資本」なのかという説明があり、次に、社会的共通資本をどのように捉えているのか、さらに、社会的共通資本を扱う授業の目標・構想についての紹介があった。

・実践した授業内容の説明があった。

- ①「1本の鉛筆」を作ったのは誰か？
- ②「授業を受けること」の機会費用は何か？
- ③すべてが市場で取引されればよいのではないか？
- ④公共財の性質から財やサービスがどう位置づくか？
- ⑤なぜ、公共財でないものを政府が供給するのか？
- ⑥高速道路を作ろうとする企業は現れるか？
- ⑦新しい大型スーパーの地域への外部経済・不経済は？
- ⑧自動車の社会的費用は何だろう？
- ⑨“豊かな社会”において大事なことは何だろう？
- ⑩「社会的共通資本」の不足や破壊、「社会的費用」が問題となっている

・次は紹介された振り返りの一部。

自分の身の回りの物やサービスを、社会的費用や社会的共通資本の視点でもう一度考えてみて、課題点やメリットをしっかりと理解するべきだと思った。

鉛筆のような日用品にも、森林伐採や労働搾取といった社会的費用が含まれていると知り、普段の消費行動を見直す契機になった。

・社会的共通資本の実践的意義を次のようにまとめがあった。

- ①身近な経済活動を「社会的費用」の視点で捉え直せたかということ
- ②豊かな社会を「市民的権利」を基準に考察できたかということ
- ③社会課題を「社会的共通資本」の視点から発見できたかということ

最後に、生徒がえることのできた視座を、これからの主題探究や課題解決・構想にも活用・拡張していくことが求められているのではないかというまとめがあった。

○樋口雅夫先生(玉川大学教育学部教授)から「『社会的共通資本に関する授業』の可能性－経済先習の意味の問い直し」という講演があった。その内容は次のとおり。

- ・政治と経済の順序について社会的共通資本を用いることで整理することができるのではないかというのが基本的な趣旨。
- ・今回、社会的共通資本が大学入学共通テストで出題されました。このことをどうとらえるのかを考えるために「問題作成の基本的な考え方」を確認する。
- ・この出題は、深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視すると読み取れる。
- ・出題者の意図は「初出の資料を**読み**様々な立場からの主張を、根拠に基づいて多面的・多角的に考察し、現代社会の諸課題の解決に向けて、公正に判断する力を発揮することを意図」したというもの。
- ・先ほど発表された杉浦実践はこのメッセージを真正面から受け止めたものと評価できる。
- ・戦後社会科教育学のこれまでの流れの説明と今回の杉浦実践の関連の説明があった。

(1) 生活主義的社会科からはじまり、(2) 教養主義的社会科へ、さらに(3) 科学主義的社会科、そして(4) 社会批判主義的社会科へとなっていて、この(4) 社会批判主義的社会科と社会共通資本は親和性があるのか？ という問いが示された。

・ついで、社会科、公民科教育における経済学習の位置付けについて説明があり、「倫理・法・政治・経済学習が共振する授業」が提起された。

・なんとなく政治が先、経済が次、**国際がその次となっているが**、順番に決まり事はなく、この順番は、子供の生活経験の同心円的拡大を意図しているとも見えるという**コメントがあった**。また、公民的分野の目標を達成するためには経済→政治の順であっても良いとのコメントもあった。

・杉浦実践での生徒の振り返りに「豊かな社会作りのためには、経済について学んだ上で、政治というものが重要になってくるものだった」というものがあったが、ここでいう「経済」は、社会的共通資本に関する経済学習のことと考えられるのではないか。

・経済学習で社会参画意欲が高まったその先にある政治学習は、制度・仕組みを静的に理解する学習ではなく、排除・分断・差別を生み出さない豊かな社会を作ろうとする学習である。

・それを示すために、高等学校学習指導要領における「公共(仮称)」の改訂の方向性(案)について説明があった。4つの主体をもとに学習内容の順番について。そこでは、先生の自由な発想でつなげてよいということが書かれている。

最後に、中教審への諮問(令和6年12月)における審議事項【主体的な社会参画】に関連して、の図をもとにまとめがあり3つの道が示された。

1つ目の道はその仕組み自体を所与のものとせず、と構想し続けさせる道

2つ目の道は「既存の仕組みは生かしつつ、法改正や運用の変更によってよりよい社会へと漸進的に変革させていくための方策を考察、構想させる道」。

3つ目の道は様々な仕組みの理解を基に、自らを社会の一員として位置付け、幸福な人生を歩む道というところで講演をまとめられた。

○会場及びWeb との間で、次のような質疑応答・意見交換がなされた。

質問 1：自動車をつくっても道路がなくては売れない。ただそれは自動車会社がやってくれない。宅急便も高速道路がなくては成り立たない。ここから、社会的共通資本に民間の資本が依存していることを教えないのか？ また、企業の目的に合わせて環境を整備するという流れでいうと新自由主義の考え方と公共の考え方は対立していないのではないか？

回答：つながりを意識したということ。整備されているからこそ経済は発展していく。そういった視点を含めて考えていきたい。市場を支えている仕組みも制度資本に含まれているのではないか。（樋口先生）

補足：司会から次のような補足。「社会資本と社会的共通資本は違う。港は公共事業。社会的共通資本は違う次元と捉えると理解しやすい」。

質問 2：中学校では経済からはじめる展開に無理があるのではないかと感じているが。

回答：入試の枠組みがある。経済からはじめるのは難しいというのは分かっている。今日は、社会的共通資本を扱うのならば経済からというお話を今日はした。それでは中学校で社会的共通資本を学習する必要があるのかという問題になる。その必要はないと思う。（樋口先生）

質問 3：中学校で教えている。「地理、歴史、公民のつながりを意識して授業を」といわれるが、経済を核にどう他分野と絡めればよいのか？

回答：地理の中に経済の話題はある。高校だと 1 人で全ての分野を教えることはない。情報交換をして学習内容を定めていけばよいのではないのか。（杉浦先生）

地理で貿易を使うときに経済の視点を入れるといった工夫が考えられる。1 人で全ての分野を教えるわけではない。他者とのマネジメント、自分自身の中でのマネジメントが必要。（樋口先生）

質問 4：①地歴担当者である。今日のお話で、地歴の中で取り扱う意義を感じた。どう取り扱えばよいのか？ どのような意義や展望があるのか？

②金融や経済の概念を意識した授業を意識している。社会科主任としてどう考えればよいのか？

回答：①について。大学入学共通テストの科目の組み合わせをもとに考えます。歴史総合のコンテンツ、地理総合の中にあるコンテンツの中に経済を扱う場面はたくさんある。（樋口先生）

②について。金融は公民だけで行っているわけではない。家庭科、特別活動、総合的な探究の時間で扱うことができる。他の先生の理解につながるかどうかが問題。金融経済の大切さを教員の中で共有していく必要がある。（樋口先生）

質問 5：杉浦実践について。これだけの内容を取り込み生徒が考察していることに驚いている。こんなことができるのか？ という漠然としたことだが質問したい。

回答：一番最初の授業で「こんな授業をしたい」ということを発信していた。生徒が自分で考える時間をとる。そして近くの生徒と情報を交換するというように学習を丁寧にすすめていくように心がけた。生徒が発信した意見を共有していいのかいけないのかをきいた上で授業をすすめていった。（杉浦先生）

(3) ニコマ目

細谷雄一先生(慶應義塾大学法学部教授) から「現代世界の政治情勢と将来の展望-世界のなかの日本のゆくえ」の講演があった。ご講演の主な内容は別添配付資料を参照していただきたい。

公演後の質疑は以下の通り。

質疑応答

質問 1：日米同盟におけるアメリカのメリットは？

回答：アメリカのメリットは日本を守ることについて得策ではないという声も出てきた。その結果でできたのが 5% の話題。自助努力をしていない国をアメリカは守らない。中国とロシアに軍拡をさせないことがいちばん大事である。

質問 2：なぜトランプのような秩序を破壊する人が支持を受けるのか？教育との関係でコメントしてほしい。

回答：教育の質は 20 年前と違って変わっている。教科書を比較してみてもナショナリズムがすすんでいる。アメリカのナショナリズムは進んでいる。イスラームもロシアも 軍勢力がなかったら占領されていたと教える。これは日本と違う教育。大事なのは外国の教科書。教科書にどう書かれているのかを理解する必要がある。

質問 3：核による戦争の抑止について。日本の核武装について。

回答：人が住んでいない土地に戦術核を打って警告をするということがある。いろいろな核兵器がある。核拡散を防ぐことはできない。人命の価値は高くなり核開発の価格は低くなる。北朝鮮は核開発の技術を途上国に売って外貨を獲得する。核兵器が通常兵器と同じように見なされる。

質問 4：逆回転を止めるためには？ それを高校生に教えるには？ 中等教育にどのような期待をしているか？

回答：多くの仲間が教科書執筆に加わっている。教科書作成には時差がでてしまう。世界の動きが速すぎる。偽情報の拡散もおそれている。学者が専門性を持って発信することは重要。良質な情報とそうではない情報を教科書を使って教えていただきたい。日本のインターネット環境は汚染されている。

(4) 三コマ目

小川幸司先生(長野県立伊那弥生ヶ丘高等学校教諭)から「「公共」と「歴史総合」が共振する学びをつくる」という講演があった。

・2015 年から中央教育審議会の社会・地理歴史・公民ワーキンググループ専門委員をつとめ、校長職を定年前に辞任、再び現役として教壇に立っているとの自己紹介があった。実際に「歴史総合」の教科書がつくられて、それを見たらがっかりしてしまった。

1 「公共」という科目の弱点について

・異なる 5 分野（心理学・哲学・法学・政治学・経済学）が相互の関連があまりないまま並列されているうえに、全体として（超）過積載であるところが弱点。

・標準単位 2 単位を意識しているのは「地理総合」だけです。公共は内容が盛りだくさんで全ての内容を授業でできるとは思えない。

・「歴史総合」と「公共」の重複があるが扱いがちがっている。明治憲法は「立憲主義」（歴史総合）か「外見的立憲主義」（公共）かという問題。同じことを論じていながら、「歴史総合」と「公共」で見方が対立している。ところがその多くは教員にスルーされている。

・「公共」は現在の時点での分類分析（静態分析）が主になっていて、時間軸による動態分析が欠如している。公共の説明は政治も経済もそれ自体の法則（内的なメカニズム）によって自ずとそのように変化していくとしている。これでは 欧米各国が 19～20 世紀の議会政治の（試行錯誤）によって民主政治が実現してきたことが捨象されてしまう。

・経済成長をもたらす要因を、「公共」では技術革新、豊富な労働力、所得分配の公平性といった国内要因に求める説明してしまっている。世界史的に見ると、戦後日本の高度経済成長をアメリカ・中東諸国・日本の分業体制の成立に目配りするような見方が欠如しているといえる。

・このままでは、条件さえ揃えば、また高度経済成長が来るんだと思ってしまいそうです。内的メカニズムだけで「公共」は説明してしまっているのです。公共と歴史総合を学ぶことで、それは違うと気付かなければならない。

2 私の授業のスタイル：「歴史総合」「公共」「地理総合」共通

・教科書の過積載という問題がある。「胃もたれ」がおこりそうだ。そして科目の内容のまとまりが「総合」していない。執筆者の専門分野ごとに並記されているだけ。

・コンピテンシー・ベースをうたう授業の多くが、「主体性の育成」の掛け声のもとに生徒に単純な資料の読み取り課題を課しているだけにとどまっている。

・対話が形式的であって「いろんな考え方があるよね」で終わってしまっている。授業の対話は、教師と生徒の対話、生徒と生徒の対話で成立する。ここで大切なのは教員と生徒の対話だと思う。

(1) 授業の三段階

ノートを用意せず、教科書ですすめる。第一段階は、生徒が自分で教科書を読む。第二段階は、自分で大切なところにアンダーラインや記号をつけてゆく。ここでわからない語句があったら、机間巡視をしている私に質問する。

・授業の第三段階では、資料の電子ファイルを配信する。生徒は、それを読んで問いを考察し、その内容を互いに対話する。資料は専門の研究書、資料集からの引用が多い。大学の授業で扱われるようなものにも挑戦する。

・考察内容を生徒同士で対話したり、私がリフレクションをすることで教室全体での共有をしたりする。その際、考察の意義の確認を大切にしている。

・問いは、それを考察することで、今までの常識的な世界の見方を揺さぶり、新たな見方を生徒それぞれがつくりあげていくものが多い。

・次に授業で学んだ内容を日常生活に活かすことをインスパイアしていく。

学校間の合併が進んでいるときに、校舎がまだできていないという事態が起こったときに、生徒が「歴史総合」でフランス革命を学んだ成果を活かして、要望をまとめ改善を勝ちとったということも起きた。

・「事実（ファクト）」というものは、とても見出しにくいものである。事実の見出しにくさと多面性に自覚的になったとき、人は目の前の事象に対して断定的な姿勢をとることに慎重になるべきだという姿勢を身につけたいと常々いっている。

(2) 歴史実践の6層構造

・「歴史実践」には6層構造があると考えている。6層とは【歴史実証】【歴史解釈】【歴史批評】【歴史叙述】【歴史対話】【歴史創造】の6段階。

・この構造は「公共」を学ぶときも同じはず。先の国政選挙の争点になった「日本における外国人の活動を制限すべき」という言説について、「歴史実践」の6層構造を用いた説明を紹介しておく。

・「歴史の学習とは、絶対正しい歴史（the history）を習得・暗記していくことではなく、これまでの人類が積み重ねてきた膨大な歴史叙述の束を検討し、自分なりの歴史叙述を独善的にならないように練り上げていくこと」となみである。

(3) 授業例：その1 明治憲法下の政治

・2023 年度&2024 年度 1 年「公共」の授業例である。「明治憲法下の政治」「公共」の教科書記述にある、明治憲法は立憲主義の外見を備えていたが、実際には絶対主義的な色彩が強い「外見的立憲主義」であった…という記述は、「歴史総合」の教科書記述にある「立憲主義」の実現という説明と矛盾している。

・大日本帝国憲法は何が問題だったのか？というテーマのプリントの三谷太郎『日本の近代とは何であったか』岩波書店《新書》を取り上げた授業実践。そこで生徒に考えさせたテーマは「今日の授業を受けて、歴史や政治を考察するうえでどのようなことが大切であるか、考察してみよう。」という問いである。

・この問いに関する生徒の答えとリフレクションには次のようなものがあった。

・「歴史や政治について、「公共」の観点からわかることと、「歴史」の観点からわかることは、同じ出来事でも見方・考え方が変わることを知った。考察するときに、自分は歴史の面と公共の面の双方から疑ってみることを大切にしたいと思った。

(4) 授業例：その 2 パレスチナ問題

・2024 年度 1 年「歴史総合」の授業例である。

・複数の資料から、パレスチナ問題の多面性を問いかける授業である。

4 おわりに——「公共」と「歴史総合」を共振させるために

・「公共」には時間軸による動態分析を導入し、「歴史学」には社会科学的な概念分析を導入する。双方に欠けているものを導入することで、「公共」と「歴史学」を同時に学ぶ意義を浮かび上がらせることができる。

・そうすることで高校 1 年生であっても、世界の諸課題に対して多面的に考察し、言葉を磨いて、主体的に意見表明ができるようになる。

・「対話」や「考察」が豊かなものとなるためには、「問い」が生徒と自分をはっとさせるようなものになっていることではないか。人類にとって大きな意義のある「問い」であるとか、自分自身の世界観を揺さぶるような「問い」でありたい。それがインクワイアリ（問題群の探究）の問いである。

・最後に評価について述べておく。

・評価はなるべく単純にする。インフォームドコンセントが大事だと授業で言っているので、評価もインフォームドコンセントを重視している。

・「君たちに教えてやるんだ」という雰囲気ではなく、「一緒に世界の諸課題について考えていこう」という雰囲気を大切にしている。

・「なるほどね、君の考察に学んだなあ」という私の発言がしばしばあるとの生徒の指摘。生徒たちも私も「授業のなかで対話をしながら、ともによりよい歴史（公共）叙述を目指し、何かの歴史（公共）創造につなげていこうとする主体」なのだ。

質疑応答

質問 1: 倫理と政治経済を同じくらいの年数で担当している。公共の扉をどう扱っているのでしょうか？

回答：アリストテレスを例に。今の日本でどのようなところで機能しているのか。それをトロッコ問題と似ている今の問題は？と問うています。後から学習して理解が深まります。

質問 2：主体性の評価がなくなることについてどう考えるのか？

回答：全国で行われている主体性の評価があまりにも煩雑。課題が提出されたら書く観点別で評価しな

さいといった指示をやろうとすると教師はたいへん。％で分けることにあまり意味はない。だから廃止しようねというのは残念。

質問3：地理総合との共振についてはどうかんがえるか？

回答：領土問題を学ぼうとすると現代の問題しかない。そこに歴史的要素を加えて考える。時間軸を入れて考えるようにする。

質問4：中学との連携は？

回答：中学で学んだ知識が前提にあれば十分だということで課題プリントをつくっている。

(5) 四コマ目

篠原総一先生(経済教育ネットワーク理事長)から「経済教育の見直し：授業デザインを一新する」の講演があった。

・講演のテーマは「わかる「公共」：経済授業の目次を組み替える」。

1. なぜ見直し、なぜ目次の組み替えか

・これまで20年間経済教育に携わってきた。ところがなかなかうまくいかなかった。なぜうまくいかないのか？を考え続けた。一方で中学校の先生でとてもうまく教えている先生がいることを知った。そこで気付いたことがある。

・気付いたことは、教師が経済学を教えようとしているところ。教えようとしている内容は経済学部のカリキュラムをつまみ食いしているところが原因だとわかった。

・誰に何をどう教えるのか？を意識して教えない限り、つまみ食いでは絶対に教えられないということだ。

・何を教えるのか？が生徒向けにつくられていないところが問題だ。

・教科書の目次の構成をみながら、その内容の大半は大学のカリキュラムは大学生に伝えるメッセージで、ここ何十年も変わっていない。

・この並べ方が問題だということを言いたいのが本講演の趣旨である。多くの先生ができるようなカリキュラムを示したいというのが目標だ。

・この話は教育学のプロでは気付くことはなく、経済学のレスプロだから気付いたのである。

・経済はものすごく抽象なもの。カラクリなんて誰も見たことがない。心理学と同じ。抽象化したものを論理で組み立てたものが経済学だ。

・目で見て確認ができない。経済を教える時に大事なものは「見える化」。つまみ食いでは見える化はできない。

・今の教科書を見ると経済学で大事なことで高校生にもわかりやすそうなものを選んだものが書かれているだけ。

・今日の話は、「こういうことを生徒が知っていると役に立つ」という視点で内容をピックアップしてみたものである。

2 生徒が知って役立つものは

・それでは、なぜ生徒が社会を見る目、経済を見る目を身につけられないのか。

・経済学で教えるにかかるといえるからである。経済学の理論は抽象的(実験すらも抽象的)であり、需給曲線は見えないものであり分析するための手立てである。

・GDP について。これも人間がつくったもの。生徒に教えても伝わらない。最後に「あーこれが GDP か」という教え方をすれば良い。

・経済学には隠れた前提条件がある。そのひとつとしてリカードの理論に関する前提条件を**取り上げる**。

・経済を学習するキーワードとして希少性、分業と交換、准キーワードとして 信頼、機会費用、効率と公正をあげておく。つながりがものすごく大事だ。

・そこで、つくりあげたのが次の表である。（資料参照）

縦軸に私たちの生活を支えているモノにはどのようなものがあるのかを並べた。

横軸でどこから来るのかを考えさせる。

右に右にと横軸は伸びていきます。そこに学ぶべき具体的な素材がある。

・例えば、電力。教えたことは、電気はほかのエネルギーと比べると貯蔵ができないこと。需要と供給が同時に起こること。遠いところまで送電網を使って送ること。規模の経済を教えないといけないこと。これは教科書には書かれていない。

・ここから先の細かいこと、項目選びがここからの**課題であり**、それは先生方の課題でもある。

質問 1：誰が考え方を变える必要があると思いますか？ 誰に働きかけたらよいのでしょうか？

回答：わかりません。経済を学んだことがない学校の先生が教えるわけです。これは時の総理が決断しないとイケないくらい大きな問題です。

質問 2：小学校社会科に近いものだと感じました。独自性はどこにあるのでしょうか？

回答：ほかの科目のことは分かりません。もともと抽象的なことをいかにして見える化することが重要です。

以上 記録 金子幹夫